

high priest

ハイ ブリースト

知っておきたいキリスト教のことば (127)

大祭司 だいさいし

「大祭司」は、祭司階級であるレビ人の長です。大祭司は祭司の中から特に選ばれた人で、イスラエルにおける宗教の最高権威者でした。彼らは至聖所で犠牲をささげる務めを委ねられており、年に一回、イスラエルの民と自分自身の罪の贖いとして、定められた犠牲をささげていました。

バビロン捕囚後には、大祭司はユダヤ国家の長と認められています。さらに新約時代には、ユダヤにおける最高裁判権を持った宗教的・政治的自治組織であるサンヘドリンの議長も務めています。そのため宗教だけでなく、政治的にも最高権威者となっていました。

新約聖書を読んでいくと、イエス様は王であり、預言者であり、祭司であると書かれています。特にヘブライ人への手紙は、大祭司であるイエス様の姿を強調して描き、「大祭司キリスト論」を展開しています。

ヘブライ書によると、イエス・キリストは全人類の贖いのため、ただ一度だけ、ご自身の血によって永遠の贖いを成し遂げられたとされます。旧約における大祭司が年に一度犠牲をささげていたのに対して、イエス様がささげたのはただ一度きりでした。また旧約の大祭司が動物の血を用いたのに対して、イエス様はご自分の血を用いられました。

つまりイエス様は、「完全な大祭司」としてわたしたちの最高権威者となるように、神さまに任命されたのです。

律法は弱さを持った人間を大祭司に任命しますが、律法の後になされた誓いの御言葉は、永遠に完全な者とされておられる御子を大祭司としたのです。(ヘブライ人への手紙 7 章 28 節)

次回は「墮罪」です。楽しみに。



「大祭司の前のキリスト」

ヘラルト・ファン・ホントホルスト

(1592～1656 年)

それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。

(ヘブライ人への手紙 2 章 17 節)

